

部 方 針 書

年度	部名	部長名
R8	観光スポーツ文化部	青山佳代

No	経営方針・取組の方向性(業務、組織、人材に関するマネジメント目標を含む)
1	《人材育成》 将来にわたって中学生がスポーツ・文化芸術活動に親しむことができる機会を確保するため、「新たな放課後活動」として地域クラブへの円滑な展開を進める。特に、校長会との合意形成(方向性の一致)、低所得者への支援策(就学援助制度活用)については早期に決定する。
2	《まちづくり》 本市ならではの観光、スポーツ、文化の特長的資源を活用し、市内への誘客増加、継続的にぎわいを創出する(まちエヴァ、ときわ公園、彫刻展、MICE/合宿誘致)。
3	《くらし》 文化、スポーツ分野での社会包摂事業を進めるとともに、増え続ける外国人住民がトラブルなく生活できるよう、多文化共生への理解促進に向けた事業を展開する。
4	《持続可能な組織・まちの仕組みづくり》 老朽化施設の今後の改修等の計画について、方向性を決定する(渡辺翁記念会館、石炭記念館、陸上競技場など)。
5	《持続可能な組織・まちの仕組みづくり》 外郭団体や実行委員会への補助金、委託事業の効果を再検証し、次年度以降の予算に反映する。
人財育成・内部統制	各課が俯瞰的、客観的視点を持ち、冷静に業務を遂行できるよう、必要な情報提供や助言を行う。 成功体験だけでなく、失敗も含め経験を積み上げることで、成長やモチベーション向上を促す。 職階ごとに求められるスキルの定着を促し、ミスの予防と職員のレベルアップにつなげる。

課 方 針 書

年度	課名	課長名
R8	観光交流課	林 美佐

1 課の使命

市民生活、まちづくりにおいてどのような責務を負っているか、存在理由
●ビジネスやスポーツ等を含む「広義の交流人口（観光交流人口）」を拡大し、宿泊・飲食などの消費を促すことで地域経済を活性化させる。 ●本市ならではの資源を磨き上げ、訪れたい魅力あるまちづくりを推進する。 ●国籍や文化の違いを認め合い、誰もが地域の一員として相互に尊重し合いながら安心して暮らせる、多文化共生のまちづくりを推進する。

2 課の目標

No.	使命を果たすために目指す状態、到達点	関連計画	指標(単位)	最終目標 (最終目標年度)	R7実績(見込)	R8目標
1	観光交流人口の増	前期実績(施策3-1,3-2)	観光交流人口	180万人 (R8年度) 【参考値】	217万人	220万人
2	観光交流人口の増	個別計画(宇部市観光交流アクションプラン)	のべ宿泊数	30万人	29万人	30万人
3	多文化共生への理解が進み、国籍に関わらず全ての市民が、お互いの国の文化や習慣を理解・尊重し合い、誰もが安心して暮らしている。	個別計画(宇部市多文化共生推進ビジョン)	外国人住民との共生に対する市民の受容度	70% (R12年度)	48%	60%
人財育成/内部統制	改めて凡事徹底の意識を持ち、脱前例踏襲、根拠を持った正確な事務処理を行う。課内での研修やミーティングを実施し、基礎知識を学べる環境をつくる。					

3 課の人的資源(R8.4.1時点)

正規職員	うち定年延長	うち再任用	
12	1	0	

会計年度職員	臨時職員
0	0

4 R8年度の主な取組（※重点順）

目標No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック
1	コンテンツ活用事業	重点実装 ①-3	未来4	56,000千円	【必要性】 ・新たな来訪者を獲得し続けている。 (まちエヴァXフォロワー数: R6/3,315人→R7/7,090人)(アンケート結果: 初めて参加: 51%、2回以上: 49%) ・アジア・欧米からも「まちエヴァ」を目的に一定数の来訪者がいる。 ・本市の彫刻、ものづくりの技術が融合し、シビックプライドの醸成と都市ブランディングにつながっている。 【ボトルネック】 ・エヴァンゲリオン30へのブース出展時に、熱心なファン層の間でも「まちエヴァ」の認知が未達。 ・ファン層への認知度向上に向けた、効果的かつ重点的なプロモーションの展開が必要。
目標No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック
	多文化共生推進事業	重点実装 ①-4	—	2,932千円	【必要性】外国人住民が増え続けている中で、国籍に関わらず全ての市民が、お互いの文化や習慣を理解・尊重し合い、誰もが安心して暮らせる地域づくりを進める。 市内在住外国人人口: R7年3月末2,514人→R7年12月末2,625人(4.4%増加) 【ボトルネック】外国人総合相談窓口の認知度が依然として低く、日本人・外国人双方の相談ニーズが潜在化したままである。
R8年度の取組内容(何をするか簡潔・明瞭に)					取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)
2	・宇部市多文化共生推進の取組 ・委員会の開催(宇部市多文化共生推進委員会、庁内関係課) ・啓発(図書館、財産管理課、民間事業者、地区コミュニティ) ・多文化共生推進事業費助成金(民間事業者) ・外国人住民のための生活ガイド刷新(庁内関係課) ・外国人総合相談窓口の周知(各地区の自治会連合会、外国人が集まる店舗等) ・市政情報出前講座の実施(廃棄物対策課、防災危機管理課) ・外国人住民に対する日本語教育の充実・推進(日本語クラブ宇部、外国出身住民のための日本語教室(黒石)、県国際交流協会)				外国人住民との共生に対する市民の受容度 現状(R7年度末) R8年度末 48% ▶ 60%
目標No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック
	観光交流創出事業	重点実装 ①-3	未来4	95,665千円	「ときわ公園」「彫刻」「まちじゅうエヴァンゲリオン」など、本市独自の強みを発信し、国内外からの来訪者が増加する。 新たにオープンした宿泊・コンベンション施設を活用し、ビジネス需要(MICE)を取り込み、市内滞在型による地域消費の定着につなげる。
R8年度の取組内容(何をするか簡潔・明瞭に)					取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)
3	・県内で展開される大型観光キャンペーン「山口デスティネーションキャンペーン」を活用した観光誘客 ・宿泊施設・大規模コンベンション施設のオープンに伴うMICE誘致活動 ・MUCCセメント交流ひろば等を活用し、新しい形での宇部まつりを開催				観光交流課公式インスタグラム フォロワー数 現状(R7年度末) R8年度末 6,425人 ▶ 8,000人

課 方 針 書

年度	課名	課長名
R8	ときわ公園企画課	山田将司

1 課の使命

市民生活、まちづくりにおいてどのような責務を負っているか、存在理由

市民が誇れる都市公園を目指して、民間事業者との連携事業や、民間活力の導入検討、新たな魅力づくりなどにより、「市民の憩いの場」と「観光交流の拠点」の両立を実現できるよう、持続的にときわ公園の活性化を進めていく。

2 課の目標

No.	使命を果たすために目指す状態、到達点	関連計画	指標(単位)	最終目標 (最終目標年度)	R7実績(見込)	R8目標
1	来園者が自然や園内施設を楽しみ、若者や地元事業者など多様な主体との「共創」による魅力にあふれたイベントや取組が増え、市民に愛され、誇りを持てる都市公園となっている。	前期実計(施策3-2)	ときわ公園年間入園者数	710,000人 【参考値】 800,000人(R8)	701,000人	710,000人
2	館内の植物が適正に管理・展示され、植物に関連する企画展を随時開催するなど何度も訪れたい、愛される植物館となっている。	個別計画(ときわ公園 活性化基本計画)	植物館の入館者数	60,000人 (R8)	75,038人	76,000人
3	生息環境展示という全国でも特色ある施設の特徴を活かし、何度も訪れたい、愛される動物園となっている。	個別計画(ときわ公園 活性化基本計画)	動物園の入園者数	120,000人 【参考値】 160,000人(R8)	118,396人	120,000人
4	何度も訪れたい満足度の高い、市民の憩いの公園となっている。	—	ときわ公園利用者満足度	75% (R8)	69% 【大変満足・満足】	75%
人財育成/内部統制	事務処理ミスが発生しないよう業務知識及び意識の向上に向けた体制づくりに取り組む。					

3 課の人的資源(R8.4.1時点)

正規職員	うち定年延長	うち再任用	
15	0	0	

会計年度職員	臨時職員
6	0

4 R8年度の主な取組（※重点順）

目標No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック
1	ときわ公園の魅力向上 (民間活力導入検討事業)	重点実装 ①-3	未来4	3,000千円	R7年度の民間活力導入可能性調査により、公園全体の一体的な管理・運営への事業者参画は困難との見解が示されたため、R8年度は、導入の方針を定めた上で、可能な範囲で指定管理者制度の活用と、民間収益施設設置導入も含めた現実的な手法の検討を進める。実現による市民への効果として、公園の魅力向上、にぎわい創出、持続的な運営が期待される。専門性の高い施設の扱い、サービス水準の確保、既存団体との合意形成が主なボトルネックとなる。
2	R8年度の実施内容(何をやるか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る指標(アウトプット指標)
3	●R7年度の可能性調査結果を精査し、民間活力導入の方針決定を行う。 ●対象範囲、官民の役割分担を整理し、指定管理者制度の活用と、民間収益施設設置の検討を軸に、最適な事業手法や事業スキームなどを具体的に検討していく。 ●事業手法に基づく、要求水準を整理し、募集要項の作成を行う。				民間活力導入の方針決定。業務範囲や事業手法の決定。
4					現状(R7年度末) R8年度末 — —
目標No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック
1	ときわ公園の魅力向上 (ドッグラン施設の設置検討を含む、ブランド推進)	重点実装 ①-3	未来4	50,295千円	R7年度はときわ公園開設100周年を記念し、祝賀イベント開催や動物園・植物館の無料開放を行った結果、両施設の利用人数は増加したが、公園全体の入園者数はR6年度の水準に留まった。R8年度はドッグラン施設の設置による新たな魅力創出の検討に加え、共創パートナーの育成、多様なイベントの同時開催などにより、引き続き市民に愛される公園の実現を目指していく。
2	R8年度の実施内容(何をやるか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る指標(アウトプット指標)
3	●公園を楽しむ新たなコンテンツであるドッグラン施設の設置検討を行う。 ●地元の学生や事業者などときわ公園のにぎわいづくりに欠かせない共創パートナーが自走可能な園内イベントを開催できるよう、パートナーの育成及び連携の強化を図る。 ●適時情報発信を行い、ときわ公園の魅力発信とともに、誘客強化を図る。				共創イベント数
4					現状(R7年度末) R8年度末 15件 17件
目標No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック
1	博物館企画推進事業	—	—	10,833千円	植物館は学びと憩いの施設であるとともに、公園全体の魅力向上に寄与している。R7年度の入館者の増加は無料開放の影響が大きく、希少な植物を身近に観察ができる利点の訴求に一層の取組が必要であり、通常時の集客力不足や再来訪につながる企画・発信の弱さがボトルネックと捉えている。多様な植物の品質の維持と地域連携による魅力向上でリピーターの確保を図る必要がある。
2	R8年度の実施内容(何をやるか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る指標(アウトプット指標)
3	●植物の適正管理により展示品質の維持は勿論のこと、季節ごとの企画展、体験型プログラム、夜間開館等を実施し、来館動機の新規獲得と満足度(R7:76%)の向上を図る。 ●学校、地元事業者、共創パートナー等と連携した参加型イベントを充実させる。 ●新規来館者の獲得と再来館の促進につなげるよう、SNS等を活用した植物館の魅力発信を強化する。				植物館の入館者数
4					現状(R7年度末) R8年度末 75,038 76,000

目標 No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック
	ときわ動物園管理運営事業	—	—	265,259千円	動物園は学びと憩いの施設であるとともに、公園全体の魅力向上に寄与している。H28年グランドオープンから10年を迎え、魅力ある生息環境展示により、報道機関に取り上げられ知名度の向上が図られる一方、新たな展示動物の導入や魅力ある企画展が行えておらず、新規入園者やリピーターの獲得が出来ていない。課題を改善し、動物園を起点とした観光交流人口の拡大により、地域の活性化が図られる。
1	R8年度の取組内容(何をするか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)
3	●公益財団法人常盤動物園協会と現場立会・協議を行い、施設の修繕計画を作成し、改修に取組、安全安心な施設管理を行う。 ●生息環境展示という全国でも特色ある施設の強みを活かした情報の発信の強化を行う。 ●SNS等を利用し、「動物の赤ちゃん誕生」など話題性の高い旬な情報を即時に発信していくことで、集客に繋げる。				動物園入園者数
4					現状(R7年度末) 118,396 R8年度末 ▶ 120,000

課 方 針 書

年度	課名	課長名
R8	ときわ公園整備課	金子 豊

1 課の使命

市民生活、まちづくりにおいてどのような責務を負っているか、存在理由

「ときわ公園活性化基本計画」に基づき、園内の花木や施設を計画的に維持管理し、ときわ公園の魅力をグレードアップさせるとともに、「市民の憩いの場」や「観光施設」として、充実を図る。

2 課の目標

No.	使命を果たすために目指す状態、到達点	関連計画	指標(単位)	最終目標 (最終目標年度)	R7実績(見込)	R8目標
1	年間通じ、ときわ公園を多くの人を訪れる憩いの場とする。	前期実計(施策3-2)	年間入園者数	710,000人 【参考値】 800,000人(R8)	701,000人	710,000人
2	常盤湖周遊園路を活用したウォーキングなど健康づくりの場となる。	個別計画(ときわ公園 活性化基本計画)	スポーツ広場周辺の歩道の 整備進捗率(事業費ベ ース:%)	100%(R13)	20.8%	33.0%
人財育 成/内 部統制	政策立案する際に「前例踏襲」を避けることを念頭に置くことを再度徹底する。また、個々の違いがある「凡事徹底」をよく理解し業務に取り組む。					

3 課の人的資源(R8.4.1時点)

正規職員	うち定年延長	うち再任用	
12	0	3	

会計年度職員	臨時職員
4	

4 R8年度の主な取組（※重点順）

目標No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック	
	ときわ公園管理事業	—	—	4,144千円	年間を通し花の育成を行い、ときわ公園内の花壇、樹木等の管理を実施する。更に長年憩いの場となっている菖蒲苑、記念ガーデンの維持、更に桜山の桜が老朽化しており、安心安全な憩いの場を維持することが必要である。	
	R8年度 of 取組内容(何をするか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)	
1	職員による園内管理に加え、ボランティア団体等と協力しながら、園内の花壇、花いっぱい運動記念ガーデンの維持に努める。また、菖蒲苑の再生に向け植替えを継続する。更に桜山の桜について、枯損木の撤去後、配置の検討を行い、植替えを実施していく。				園内花壇等の維持(面積) 菖蒲の植替え(%) 桜山の桜の植替え(本)	
					現状(R7年度末)	R8年度末
					7,654㎡ 50% 0本	7,654㎡ 75% 20本
目標No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック	
	ときわ公園整備事業	重点実装 ①-1	未来4	69,600千円	ときわ公園には、常盤湖を巡る1周5.7kmの周遊園路があり、その内歩道の無いスポーツ広場周辺に周遊園路(歩道延長約580m)、照明灯を整備し、ウォーキングなどによる健康づくりとしての場やスポーツイベントなどの利用者の安全性、利便性の向上を図る。	
	R8年度 of 取組内容(何をするか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)	
2	多くの市民の健康づくりの場としても活用できるよう、関連団体と連携しながら、現在施工中の整備工事に引き続きスポーツ広場周辺の歩道整備を実施する。 さらに、公園計画内の民有地の調査等を実施し、土地所有者と交渉し、用地取得契約を締結する。				周遊園路整備進捗(事業費ベース)	
					現状(R7年度末)	R8年度末
					20.8%	33.0%

課 方 針 書

年度	課名	課長名
R8	スポーツ振興課	宮村 毅

1 課の使命

市民生活、まちづくりにおいてどのような責務を負っているか、存在理由

「だれもが、いつでも、どこでも、いつまでも」市民一人ひとりがスポーツを通じて豊かな人生を送ることができる環境を整備する。
「する、みる、ささえる」スポーツの推進により、「誰もがスポーツを楽しむことができる 笑顔でつながるまち・宇部市」の実現をめざす。

2 課の目標

No.	使命を果たすために目指す状態、到達点	関連計画	指標(単位)	最終目標 (最終目標年度)	R7実績(見込)	R8目標
1	●誰もがスポーツを楽しむことができる環境づくりが進む。(子どもから高齢者、障害の有無に関係なく希望に応じて多くの市民が気軽にスポーツに触れる機会がある。) ●市民の心身の健康の増進(スポーツへの参加意欲が高まり、健康的なライフスタイルが広がり、地域全体のQOL(Quality of Life: 生活の質)が向上する。) ●地域活動の増加による地域コミュニティの活性化 ●共生社会の実現につながる活力ある地域づくりの推進	前期実計(施策3-3)	週1回以上スポーツをする成人の割合(%)	80%	79%	80%
2	●トップアスリートやプロスポーツチームの活躍により、多くの観戦者の来場や交流人口が増加(交流人口の拡大、経済効果や地域活性化が進む。) ●地域住民の連帯感やシビックプライドの醸成	前期実計(重点4)	スポーツを通じて交流する人の割合(%)	25%	21.6%	25%
人財育成/内部統制	上司・部下、係内で必要な報告、連絡、相談が適時に行われ、情報共有が自然に機能している状態		課内ミーティングの実施回数(回)	12		12

3 課の人的資源(R8.4.1時点)

正規職員	うち定年延長	うち再任用	
6	1		

会計年度職員	臨時職員
2	

4 R8年度の主な取組（※重点順）

目標No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック			
	トップアスリートやプロスポーツチーム連携・活用事業		未来3	10,200千円	プロスポーツチームとの連携を進めることで、スポーツを「みる」「ささえる」機会が広がり、スポーツへの関心や地域への愛着の向上が期待される。特に子どもたちが身近に選手と接し、スポーツの楽しさや素晴らしさを実感することで、運動習慣の形成や体力向上につながる。			
2	R8年度の取組内容(何をするか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)			
	●子どもの体力向上プログラム 市内小学校3校程度を対象に、連携協定を締結しているプロスポーツチーム(山口パッツファイブ等)と連携し、選手を講師とした新体力テストと連動した運動教室等を実施し、実施前後の変化及び体力低下のボトルネックを検証する。(前年度1校→3校) ※対象校の選定及び実施にあたっては、教育委員会学校教育課と連携。 ●子どもスポーツ夢教室 市内小学校12校にレノファ山口、山口パッツファイブ、ミネルバ宇部、スリストム等の選手を講師として派遣するほか、市内中学校2校にオリンピック等を講師として派遣する。※実施にあたっては、教育委員会学校教育課と連携。 ●プロ・トップスポーツ観戦応援・ふれあい事業 連携協定を締結しているプロスポーツチームと連携し、観戦招待企画やパブリックビューイング等を開催するほか、市制施行105周年記念事業として大相撲宇部場所を開催し、「みる」スポーツを促進する。				スポーツを通じて交流する人の割合(%) <table><tr><td>現状(R7年度末)</td><td>R8年度末</td></tr><tr><td>21.6</td><td>25</td></tr></table>	現状(R7年度末)	R8年度末	21.6
現状(R7年度末)	R8年度末							
21.6	25							
目標No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック			
	スポーツ合宿誘致事業	重点実装①-3	未来4	2,000千円	スポーツ合宿の誘致を促進することで、来訪者の増加による交流人口の拡大や、宿泊、飲食、交通など地域経済の活性化を図るとともに、閑散期のスポーツ施設の有効活用や稼働率の向上につなげる。			
2	R8年度の取組内容(何をするか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)			
	スポーツコミッション(現:スポーツ協会)が自主事業として実施していたスポーツ合宿助成金については、申請件数の増加や、長期間・多人数の合宿に十分対応できていない状況を踏まえ、助成内容の見直し及び拡充を行った上で、宇部市スポーツ協会への委託事業として実施する。				助成金交付件数 <table><tr><td>現状(R7年度末)</td><td>R8年度末</td></tr><tr><td>12件</td><td>24件</td></tr></table>	現状(R7年度末)	R8年度末	12件
現状(R7年度末)	R8年度末							
12件	24件							

目標No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック
1	体育施設整備事業		未来4	541,350千円	市民の健康増進、子どもの健全育成、多世代交流を支える重要な公共基盤である体育施設の老朽化対応や利便性向上を計画的に進め、安全で利用しやすい環境を整備することで、地域交流やにぎわいの創出と持続可能な施設運営につなげる。
	R8年度の取組内容(何をするか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)
	●西部体育館屋上防水改修事業 R7に強風により屋根の一部が剥がれ雨漏りが発生し、応急処置をしている状態のため、屋上(屋根)にシート防水を施工する。(1,400㎡)※設計・施工管理等については、営繕課に依頼。 ●恩田運動公園野球場照明改修事業 築後28年が経過し、老朽化が著しい照明鉄塔の改修及び既に国内メーカーの製造が中止となっている照明設備のLED化を実施する。一体的に施工することにより、足場建設費用の削減を図る。※営繕課と連携して実施(設計における技術的助言・施工管理等) ●恩田運動公園陸上競技場公認改修事業 現公認(4種ライト)は、令和9年6月30日までとなっているため、公認継続に必要な改修を行う。 ●俵田翁記念体育館バスケットゴール更新 不具合が生じている俵田翁記念体育館のバスケットゴールを更新する。				整備・更新完了施設数(施設) 現状(R7年度末) R8年度末 0 4
目標No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック
2	アーバンスポーツ推進事業		未来4	23,000千円	観戦やアーバンスポーツ体験の機会を創出することで、子ども・若者を中心にスポーツに親しむきっかけが広がり、交流やにぎわいの創出につながる。また、家族連れを含む幅広い世代が楽しめる場となることで、世代を超えた交流の促進や、恩田スポーツパークの活用促進・認知度向上にも寄与する。
	R8年度の取組内容(何をするか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)
	●市制施行105周年記念「UBE URBAN SPORTS FES 2026」の開催 これまで、別々に開催していたアーバンスポーツに関するイベントを一体的に実施し、準備・運営費等の効率化を図るとともに、相乗効果により集客力を高める。メインイベントとなる「3x3.EXE PREMIERオールカンファレンス大会」の誘致開催については、スリストムと連携を行う。 (イベント内容:アーバンスポーツローカル大会、アーバンスポーツ体験会、キッズエリアなど) ●アーバンスポーツローカル大会の開催 スポーツ協会主催のスポーツフェスティバルにおいて、恩田スポーツパークの都市型スポーツエリアを活かしたアーバンスポーツローカル大会や体験会を実施する。				UBE URBAN SPORTS FES2026来場者数(人) 現状(R7年度末) R8年度末 10,000 15,000

課 方 針 書

年度	課名	課長名
R8	文化振興課	徳田 泉

1 課の使命

市民生活、まちづくりにおいてどのような責務を負っているか、存在理由

文化を通しての楽しさや感動は、市民の心を豊かにし、日々の暮らしに潤いをもたらすとともに、文化やアートは、人と人、人と社会のつながりを深め、市民生活や活力ある社会の基礎となるものであるため、効果的な文化施策に取り組むとともに、文化施設の計画的な維持管理を行い、人と地域がきらめく文化の薫るまちづくりを推進する。
また、開催間隔を変更した野外彫刻展を、今後も市民のシビックプライドにつなげ、彫刻をより身近に感じる機会を創出するとともに、アートのまちとして魅力ある地域づくりを目指す。

2 課の目標

No.	使命を果たすために目指す状態、到達点	関連計画	指標(単位)	最終目標 (最終目標年度)	R7実績(見込)	R8目標
1	市民が文化に触れることで、心を豊かにし、日々の暮らしに潤いがもたらされているとともに、人と人、人と社会のつながりがより深まり、市民生活の向上や活力ある社会づくりにつながっている。	前期実計(施策3-4)	文化を鑑賞した人の割合(%)	80.0	84.6	85.0
2	野外彫刻展を継続して開催することで、まちの魅力向上や交流人口の拡大、にぎわいの創出につながっている。アートのまちづくりに野外彫刻展が果たす役割が大きいと思う人が増加している。	前期実計(施策3-4)	「野外彫刻展」に対する市民の理解度(%)	80.0	79.3	82.0
3	彫刻教育を受けることで、わがまちの野外彫刻について知ることができ、シビックプライドが醸成されているとともに、アート教育としても創造力や豊かな感性が育まれている。	その他	彫刻教育受講者数(人)	2,900	3101	3200
人財育成/内部統制	対話を深めて風通しの良い職場を実現し、職員一人ひとりが主役として挑戦できる環境を整える。市民の信頼維持に向け、基本的な事務手続きの徹底(凡事徹底)を最優先する。					

3 課の人的資源(R8.4.1時点)

正規職員	うち定年延長	うち再任用	
7	0	0	

会計年度職員	臨時職員
1	0

4 R8年度の主な取組（※重点順）

目標No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック
	野外彫刻展開催事業	重点実装 ①-3	未来4	56,342千円	65年の長きにわたり開催を続けてきた野外彫刻展は、本市固有の文化として発展を続け、ギネス世界記録にも認定された。開催間隔を2年から3年に変更し、今後も持続可能な野外彫刻展として開催を続けていく必要がある。 来年度開催の「UBE現代日本彫刻展2027」を市内外に広くPRL、開催機運を醸成する必要がある。
2	R8年度の取組内容(何をするか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)
	新たなスタートを切った「UBE現代日本彫刻展2027」を市内外に広く周知していく。 ●福岡県で開催されるAFAF(ART FAIR ASIA FUKUOKA 2026)に出展し、来場者に対面でPRする(受託事業者) ●夏の美術室、彫刻ビクターセンター等の企画や市民交流棟でのパネル展示などを通じてPRを継続する ●2027展参加作家に注目したコンテンツを作成し、SNS等で継続的な情報発信を行う(運営委員、選考委員、移住定住推進課、観光交流課、広報広聴課) ●第30回UBEビエンナーレの作品移設・撤去及びUBE現代日本彫刻展2027の作品基礎設計等を行う				会期中(197日間)ときわ公園来園者数 前回展同時期 2027展 402,594人 ▶ 432,000人
目標No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック
	文化活動推進事業		未来4	78,094千円	市民の文化を鑑賞した割合が、コロナ以前の水準以上にまで回復してきた。またR8文化会館リニューアルオープン後は、特に文化活動への参加・鑑賞機会の充実を図り、新たな活力を生み出す「人と地域がきらめく文化の薫るまち」の実現を目指す。
1	R8年度の取組内容(何をするか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)
	●第三次ビジョンの進捗管理を行うとともに、文化振興まちづくり審議会を開催し、第四次ビジョンの策定を行う ●文化会館リニューアルオープン記念事業を行う(文化創造財団、文化連盟、指定管理者ほか) ●市民の文化活動の支援を行うとともに、市民が良質な文化に触れるための公演等の開催や、次代を担う世代への鑑賞や体験機会の提供、誰もが楽しめる文化事業等を実施する(文化創造財団) ●国際錦鯉品評会の開催に伴う支援を行う(愛鱗会)				文化を鑑賞した市民の割合 現状(R7年度末) R8年度末 84.6% ▶ 85%
目標No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック
	文化施設整備・管理事業		未来4	96,186千円	渡辺翁記念会館は、S12年に落成以来、築89年が経過。耐震化や空調設備の更新など、長寿命化を図る必要があるが、多額のコストが予想される。今後のホールとしての活用方向性を「保存活用検討委員会」などを開催し検討する必要がある。 文化会館は、外壁・耐震・内部の大規模改修工事完了がR8に延期となり、今後も追加工事対応が必要。 両会館の使用料を改定することで運営の適正化を図る。また、指定管理者制度の活用により運営効率化と市民サービスのさらなる向上を両立させる。
1	R8年度の取組内容(何をするか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)
	●文化会館長寿命化改修に伴う追加工事を実施する ●渡辺翁記念会館保存活用検討委員会を引き続き開催し、答申を得る ●R8年4月から文化会館、10月から記念会館の使用料を改定する ●指定管理者との年度協定を締結。連携して課題解決に取り組むことで、円滑な施設運営の継続を図る				渡辺翁記念会館保存活用検討委員会 現状(R7年度末) R8年度末 1回目開催済み ▶ 答申書受領

目標 No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック	
	アートのまちづくり推進事業		未来4	21,974千円	身近にある彫刻に親しむことで、まちの歴史や多様な世界に触れるきっかけをつくるとともに、鑑賞を通じて感性を育み、表現力と創造力を養うなど、彫刻を資源として活用する必要がある。 また、彫刻のあるまちの魅力を伝え、にぎわいを高めるため、市民や観光客が彫刻に親しむ多様な機会を創出する必要がある。 観光資源・文化資源として彫刻を楽しむ環境を整え、特色のあるまちづくりを進めるため、彫刻と周辺環境の適切な維持管理を行う。	
	R8年度の取組内容(何をするか簡潔・明瞭に)					取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)
2 ・ 3	●様々なニーズに応じた彫刻鑑賞授業など彫刻教育プログラムを行う(市内小・中学校、地域、団体、大学、教員、作家、吉賀町) ●まちの彫刻に関する歴史や作品・作家情報を収集し、企画展やウェブアーカイブ、拠点施設(アートギャラリー・彫刻ビジターセンター)を通じて広く伝える ●市内に設置している200点を超える野外彫刻の維持管理。計画的に点検を実施し、必要に応じた修復や修景を行う ●春と秋に開催する彫刻清掃及び小中学校やふれあい教室で実施する彫刻清掃の支援を行う					彫刻教育受講者数 現状(R7年度末) R8年度末 3,101人 3,200人

課 方 針 書

年度	課名	課長名
R8	地域クラブ推進室	明德 義和

1 課の使命

市民生活、まちづくりにおいてどのような責務を負っているか、存在理由

将来にわたって中学生がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保し、「子どもファーストで創る新たな放課後活動」を創造するとともに、地域の様々な世代間の交流を深める。

2 課の目標

No.	使命を果たすために目指す状態、到達点	関連計画	指標(単位)	最終目標 (最終目標年度)	R7実績(見込)	R8目標
1	●生徒たちがスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保 ●子どもたちの多様な体験機会を確保 ●中学校部活動の地域クラブへの円滑な展開と公設体制の基盤構築		全ての中学校部活動の地域展開(集約再編含む)と受け皿の確立	全ての中学校部活動の終了と地域展開の完了(R11年度末終了、R12完全移行)	認定クラブ数 16クラブ	部活動統廃合・エリア分けの決定 認定クラブ数 30クラブ(民設民営)
人財育成/内部統制	市長部局、教育委員会事務局の職員の併任、地域コーディネーターの設置という強みを生かし、部局間で連携して取り組む。					

3 課の人的資源(R8.4.1時点)

正規職員	うち定年延長	うち再任用	
5 (併任含む)	0	0	

会計年度職員	臨時職員
2	0

4 R8年度の主な取組（※重点順）

目標No.	事業名・取組名	市長方針書	未来PJ	R8予算額(千円)	事業実施の必要性(市民にとって何が良くなるか、まちがどう変化するか)やボトルネック
	新たな放課後活動体制整備事業		未来3	14,126千円	令和11年度末の部活動終了に向け、令和8年度は制度設計の重要な年になる。部活動の統合やエリア分けの決定を急ぐとともに、保護者負担軽減のための低所得者支援、移動手段の確認、持続可能な運営のためのBPO(包括的業務委託)検討、令和8年12月施行予定の日本版DBS(性犯罪歴等の確認)への対応など、解決すべき課題が山積している。教育委員会や関係団体と連携し、これら課題を解決し、民設民営を基本としつつ公設体制の受け皿整備を推進する必要がある。
1	R8年度の取組内容(何をするか簡潔・明瞭に)				取組の進捗を測る目標(アウトプット指標)
	■.受け皿開拓・現場推進: スポーツ協会等への「公設民営」運営母体化交渉。基本である「民設民営」クラブの自立支援。各種総会等での方針説明・協力要請。 ■.学校調整(最優先): 市内4ブロック等のエリア分け確定⇒校長会を通じた部活統合の決定 ■.制度設計・BPO検討: BPO先進地視察。低所得者支援(就学援助等への組み込み)の検討・制度化。日本版DBS運用ルール策定と指導者WEB研修の企画・運用。				認定クラブ数 現状(R7年度末) R8年度末 16クラブ ▶ 30クラブ